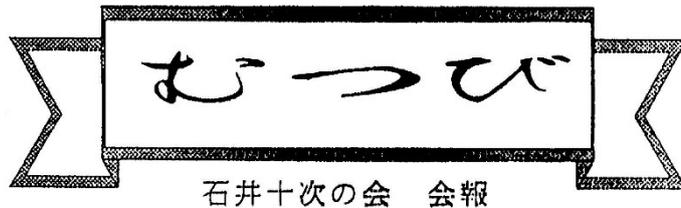


2020年
(令和2年)
9月11日



276号

自分にできることを探し行動すること
～ “石井十次” の生き方を子どもたちへ ～

西都市立妻北小学校 校長 平野 博康

本校は、「青少年赤十字」（JRC：Junior Red Cross）の加盟校である。毎年、6月に4～6年生の参加のもと、宮崎県赤十字の方をお招きし、JRC登録式を行うとともに、児童の運営委員会が中心となって、1円玉募金や歳末助け合い運動、ペットボトルキャップの回収などの取組を行っている。

※ 本年度は、熊本・人吉水害と新型コロナウイルス感染症の対策・救援のため、宮崎県赤十字の方に来ていただくことができず、5年生児童と教職員のみでJRC登録式を実施した。

そもそも「赤十字」は、スイス出身の“ジョン・アンリ・デュナン”の提唱により創設された。イタリアで起こった戦争で、街が負傷者で溢れかえっている様子を見て、街の人々とともに負傷者を救った“デュナン”は、「負傷者は敵味方の区別なく看護すること」、「看護に当たる人々は、中立として扱うこと」を世界の国々に提案し、それが「赤十字」創設のきっかけになったという。後に“デュナン”は、第1回ノーベル平和賞を受賞する。

この「青少年赤十字」の精神は、「優しさと思いやりをもち、自分にできることを探し行動すること〔気づき、考え、実行する〕」であり、本校の児童にも、JRC活動を通してその精神を学んでほしいと願っている。

この精神は、郷土の偉人で児童福祉の父と言われる“石井十次”の生き方、考え方にも共通しているように思われてならない。

“石井十次”は、心優しい母親の背中を見て育ち、困った人を放っておけない

性分であった。多感な青年期を過ごす中で、一人の男の子を預かったことをきっかけに、自分にできることを考え始め、寺の一角を借りて「孤児教育会」（後の岡山孤児院）の看板を掲げる。当時の“石井十次”は、医師になることと児童救済を行うことの間で悩んでいたが、「医師になる人は大勢いても、児童救済をやる人間は自分しかいない」と、生涯を児童救済に捧げる道を選択したと言われている。実際に孤児院を運営していくようになってからも、様々な問題や困難に直面するが、工夫や改善を加えながらその決意を生涯貫き通す。まさに“石井十次”は、「自分にできることを探し行動した人」であった。

本校では、「『生きる力』を育み、心豊かでたくましく、主体的実践のできる児童の育成」を教育目標として掲げ、教育活動を展開している。児童には教科等の学習を含めた各種の教育活動を通して、様々なことを学び、考えることで、自分自身の知識や技能、考え方、感性などを広げ、それらをもとに自分から行動できる力を身に付けてほしいと願っている。

そういう意味において、身近な“石井十次”の業績や生き方は、格好の教材である。しかし、残念なことに本校児童の“石井十次”の認知度はさほど高くはない。学校で取り上げることがあまりないことがその背景にあると思われる。私自身、茶臼原小学校での勤務経験があるため、同じ西都市内でも学校での取り上げ方が違うことを感じている。あまりにも勿体ない。

今回、この「むつび」の原稿依頼をいただいたことで、改めて“石井十次”を見つめ直す機会をいただいた。西都市の学校に勤める者として、児童に郷土の偉人である“石井十次”の業績や生き方について触れさせることが、「自分にできることを探し行動すること」への一助となるとともに、ふるさと西都市を愛することにもつながると考える。先のJRC登録式では、児童に“ジョン・アンリ・デュナン”と絡めて“石井十次”の話をしたところであった。今後も様々な機会を捉えて話をしていきたい。

《 石井十次の会宮崎支部活動の紹介 》

前宮崎支部長 飯尾 彪

2020年は東京オリンピックが開催されるはずでした。いよいよと期待を膨らませて待ち望んでいた矢先、今や新型コロナウイルス感染拡大により大変な世の中になっています。また、自然の驚異は甚大な被害をもたらす多くの方が今なお不自由な生活を余儀なくされています。何が起こるか分からない先行き不安な毎日ですが、一日も早く平穏な日々が戻ることを祈るばかりです。

さて、宮崎支部は発足11年目を迎えました。このような状況下に宮崎支部総会も大幅に遅れてスタートいたしました。今年も発足当初に掲げた目標「会員の親睦を深めながら、十次の理念に基づいた心豊かになれる研修会の実施」を踏襲することにしました。これまで過去10年間で30回を超える研修会を実施して参りましたが、どの会もそれぞれ大変意義深い内容であったと思います。その中で節目であった2015年「石井十次生誕150周年記念」と銘打った研修会について振り返り一部紹介したいと思います。

第1回は「十次の心を語る」と題し児嶋草次郎理事長に十次の青春時代について講話をいただきました。1865年に誕生した十次の名前の由来、向学心を掻き立てる熱心な教育的支援、人間形成に好環境な高鍋という土地柄、それに応えるべく素直に学ぶ十次の態度、さらに医学の道を志すまでの様子等、資料を基に分かり易く話されて心に響きました。十次の理念に繋がる生き方に参加者一同大変感銘を受けました。2回目は「福祉に対する私の思い」の題で戸敷正宮崎市長の講話でした。以前、尊敬する人に「石井十次」の名前を挙げておられたので依頼したところ快諾してくださいました。郷土宮崎から十次のような人物が出たことに大変誇りをもっていると話され、市長の宮崎支部に対する熱意に胸を打たれたことが思い出されます。福祉事業の整備や対策、子育て世帯への支援策等についての具体的なお話も勉強になりました。3回目はプロの音楽家による木管5重奏のコンサートでした。平成25年から毎年演奏してもらっています。こひつじ保育園の幼児や先生方も一緒に参加し、笑顔に満ちあふれた心豊かな時を過ごすことができました。

以上、地道な活動の一端を述べましたが、課題もある中、少しずつ支部の存在が知られるようになり嬉しく思います。宮崎支部は本年度から新支部長体制のもとスタートをきりました。今後とも引き続き皆様のご支援を何卒よろしくお願いいたします。

《 お し ら せ 》

★新会員のご紹介（敬称略）

【延岡市】 柳田 耕志

【大分市】 姫野 多美子

★ご寄付をいただきました（敬称略）

【宮崎市】 松浦 夕輝子

【都城市】 平井 良子

【福岡市】 田中 賢二

【岡山市】 叶原 土筆

★7/21～8/20の資料館来館者

団体・グループ 0人

個人 大人7人 小中高生4人

計11人

ここまでの掲載者は編集委員会開催の都合により8月20日までのものとしています。

★10月号の通信発送作業

10月12日（月）9時から印刷・製本

13日（火）9時から印刷・製本

この会報は、宮崎県を中心に全国1700余の個人・団体に毎月送付しています。

社会福祉法人 石井記念友愛社

☎ 884-0102

宮崎県児湯郡木城町大字椎木 644-1

後援会「石井十次の会」

TEL/FAX 0983-32-4612

メール

yuuaisya-jyuujinokai@kijo.jp

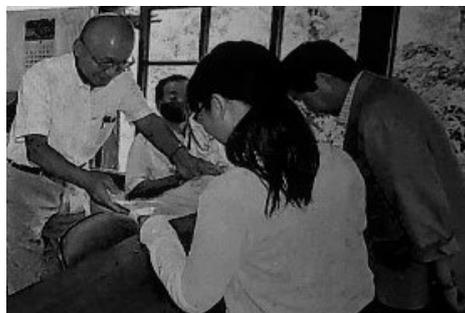
●卒園生の進学に支援の輪 拡大

7月の宮日新聞に掲載の記事2件

①高鍋舞鶴LCが30万円を贈呈



②十次の会 奨学金を2人に贈呈



大変ありがたいこと。

理事長談では大学や大学校への進学者は10名である由。この10名という数にも驚かされる。すごい。素晴らしい。

十次の教えを脈々と生かし浸透させる現在が充実しているからこそと考える。それは

- ・志が定まっている。
- ・愛情に満たされている。
- ・良き出会いをしている。

この3つの実践に収斂される教えなのでは。

さらには、先月の通信にも記載があった。

③宮崎市の香月保基夫妻より各5万円

④都城市平井良子様より各1万円

コロナ禍で勉学のみならず生活のためのアルバイトもままならない卒園生の進学を支援する輪の拡がり。

感謝の意を編集委員としても記します。

★編集後記

「むつび」巻頭は妻北小校長の平野博康様から玉稿をいただきました。ありがとうございます。先月の木城町恵利教育長の玉稿と同様、十次の生き方を子どもたちへの思いがよく伝わります。その実現に期待します。※文責 竹之下